



Our Philosophy

The e-Material Global Company

経営理念

自由闊達、技術のたゆまざる研鑽、
製品の高度化、社会への貢献

経営ビジョン

豊かな未来、社会の期待に化学で応える
“The e-Material Global Company”

CSR方針

- 従業員とのエンゲージメントを高め、グループ一丸となって持続的な企業価値向上を目指します。
- 技術革新に資する高付加価値製品を提供し続けることにより社会的課題の解決に取り組めます。
- 社会とともに発展し、すべてのステークホルダーより高い信頼を寄せられる、魅力ある企業であり続けることを目指します。

価値創造の源泉

東京応化は、ナノメートル*領域での微細化と応用技術の展開、技術マーケティングと新しい視点からの高付加価値技術開発により、半導体製造をはじめとする、幅広い分野で価値を提供しています。

*1ナノメートル(1nm)=100万分の1ミリメートル。髪の毛の太さの約10万分の1



統合レポート2020の発行にあたり

2020年10月、東京応化はおかげ様で設立80周年を迎え、同年12月期の決算において過去最高業績を達成することができました。これもひとえに、多くのステークホルダーの皆様のご支援、ご協力のもと、経済的価値と社会的価値の双方を提供し続けることができたからに他なりません。心より、厚く御礼を申し上げます。

しかしながら私は、当社の長期持続的成長はまだ始まったばかりであると考えております。当社グループは、新たに策定した経営ビジョン「豊かな未来、社会の期待に化学で応える“The e-Material Global Company”」のもと、2030年を見据えた長期ビジョン「TOK Vision 2030」の達成に向けて、グループ一丸となって取り組んでまいります。同ビジョンは、10年間の取組みによって得られる様々な成果や経済的価値と社会的価値を土台に、「20年先」である「100年企業」へと発展することを前提に策定したものです。達成への道程においては、今後も出現する見込みの「想定外リスク」をステークホルダーの皆様と共に乗り越え、共有価値を創造することで、社会の持続的発展に貢献していく所存です。

「統合レポート2020」では、感染症リスクや気候変動リスク、地政学リスクなど様々なグローバルリスクが顕在化する中、東京応化のパーパス(存在意義)である「社会の期待に化学で応える」をいかに実践していくのかについて、「マーケティング」「EHS(環境・労働安全衛生)」「ステークホルダーの皆様との協働」の視点も踏まえながら紐解いています。

当レポートの作成にあたっては、国際統合報告評議会(IIRC)が提唱する「国際統合報告フレームワーク」(2021年改訂版)、経済産業省が提唱する「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」等を参照したほか、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様との対話の中で得られた気づきや、「統合レポート2019」に寄せられたご意見も踏まえました。そのうえで、経営陣の関与と各部署による全社横断的な連携のもと、東京応化の長期的価値創造にまつわる様々な情報を集約し、誠実に作成していることを表明申し上げます。

2021年8月
代表取締役 取締役社長

種市 順昭

